

《短 報》

パーキンソン病におけるドーパミントランスポーター SPECT

濱野 忠則* 土田 龍郎** 平山 幹生* 藤山 二郎*
武藤多津郎* 米倉 義晴*** 栗山 勝*

* 福井医科大学第二内科
** 同 放射線科
*** 同 高エネルギー医学研究センター

要旨 Dopamine transporter (DAT) に特異的に結合する 2 -carboxymethoxy-3 -(4[¹²³I]iodo-phenyl)tropane ([¹²³I] -CIT) をプローブとして用いた single photon emission computed tomography (SPECT) をパーキンソン病 (PD) 10 例, ならびに血管性パーキンソン症候群 1 例, ジストニア症候群 1 例に施行した. その結果, PD では線条体, 特に被殻尾側での [¹²³I] -CIT 密度が両側で低下しており, 進行例, 重症側ほど顕著であった. また, 尾状核に比し被殻, 特に尾部での取り込みの低下が顕著であった. Webster rating scale を用いた臨床症状との相関では [¹²³I] -CIT 密度と, 日常生活, 容貌, 姿勢, 歩行, 会話との有意な相関を認めたが, 振戦, 脂漏, 罹病期間との相関はなかった. DAT/SPECT は, PD の重症度判定に役立つ可能性が示唆された.

(核医学 37: 125-129, 2000)